

国語 (現代文)

東京大学 (前期・文科) 1/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

機会の平等を目指すことが、かえって既存の階層構造を再生産していく事態をもたらすことを論じた文章。要旨は昨年度よりもつかみやすかっただろう。設問数は、昨年度同様、全体で五つであった。例年通り、設問の意図をしっかりとつかみ、解答の内容を絞り込む力が求められている。

<本文分析>

大問番号	第一問
出典 (作者)	小坂井敏晶『神の亡霊』(東京大学出版会、2018年)、「第6回 近代の原罪」の一節。
頻出度合・的中等	入試では頻繁に出題される筆者である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2900字。昨年度よりも約600字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第一問	社会論	(一)	記述	標準	第二段落末にあるように、〈社会の変革運動に関心が示されない〉経緯を考える。
		(二)	記述	標準	「近代」の「自由意志」が「虚構」と言える理由を、第六・七段落から考える。
		(三)	記述	標準	傍線部の「それ」が指す直前の内容と、「メリトクラシーの詭弁」が説明されている第四段落の内容をつなげて考える。
		(四)	記述	標準	近代以前と近代以降では不平等の根拠は異なるが、近代以降も「不平等」の「正当化」という点では同じであることを説明する。
		(五)	記述	標準	六年連続で、三問の出題であった。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかりと把握できるようにしたい。
書くべき要素を的確に捉え、簡潔明瞭にまとめる練習をしておこう。

国語 (古文)

東京大学 (前期・文科) 2/4

<総括>

文科	出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科	出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年とは異なるジャンルからの出題だったが、設問はオーソドックスなものであった。

<本文分析>

大問番号	第二問
出典 (作者)	『春日権現験記』
頻出度合 ・的中等	稀
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 約1010字。昨年度より約20字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第二問 (文科)	絵巻	(一)			
		イ	記述	標準	現代語訳 (「けしかる」の語義に注意)。
		ウ	記述	易	現代語訳。
		エ	記述	やや易	現代語訳 (「つらき」の語義に注意)。
		(二)	記述	標準	内容説明 (「思ひのどむれ」の語義に注意)。
第二問 (理科)	絵巻	(三)	記述	標準	内容説明。
		(四)	記述	標準	和歌の内容説明 (「歌占」であることに注意)。
		(五)	記述	やや易	内容説明。
		(一)			
		イ	記述	標準	現代語訳 (「けしかる」の語義に注意)。
	ウ	記述	易	現代語訳。	
	エ	記述	やや易	現代語訳 (「つらき」の語義に注意)。	
	(二)	記述	標準	内容説明 (「思ひのどむれ」の語義に注意)。	
	(三)	記述	やや易	内容説明。	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。また、解答を簡潔にまとめる練習や和歌の学習も必要。

国語 (漢文)

東京大学 (前期・文科) 3/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年通り文理共通問題であり、昨年度同様散文であった。昨年度、一昨年度は硬質な論説文が出題されたが、今年度は歴史書からの出題であった。設問数についても昨年度同様に枝間を含めて文科6題、理科5題であった。また今年度は、設問に関わる部分での送り仮名の省略が3箇所であった。例年通り答案を作成する際に内容を適切にまとめるのは容易ではない。

<本文分析>

大問番号	第三問
出典 (作者)	『漢書』
頻出度合・的中等	『漢書』はしばしば出題されるが、当該箇所は稀。同内容のものは『捜神記』『説苑』などにあり、2012年の早大・慶大オープンで同内容の『捜神記』を使用。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 216字。昨年度は192字 (昨年度より24字増)。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第三問 (文科)	史伝	(一)			
		a	記述	標準	現代語訳。「獄」「平」に注意する。
		c	記述	標準	現代語訳。「事」に注意する。
		d	記述	標準	現代語訳。「聞」に注意する。
		(二)	記述	標準	現代語訳。「之」が「孝婦」を指し、「終不肯」の主語が「孝婦」であることを捉え、重要表現「終」「不肯」に注意する。
第三問 (理科)	史伝	(三)	記述	標準	内容説明。「之」の内容を文脈にあわせて的確に捉える。
		(四)	記述	標準	理由説明。第三段落の内容を踏まえ、的確にまとめる。
		(一)			
		a	記述	標準	現代語訳。「獄」「平」に注意する。
		c	記述	標準	現代語訳。「事」に注意する。
		d	記述	標準	現代語訳。「聞」に注意する。
		(二)	記述	標準	現代語訳。「之」が「孝婦」を指し、「終不肯」の主語が「孝婦」であることを捉え、重要表現「終」「不肯」に注意する。
		(三)	記述	標準	理由説明。第三段落の内容を踏まえ、的確にまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の習得と十分な問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。
細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。
漢詩もたびたび出題されるので、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。

国語 (現代文)

東京大学 (前期・文科) 4/4

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

詩人の谷川俊太郎によるエッセイからの出題。文学者や芸術家の随筆が使われるという傾向は、例年どおりである。どの設問でも似かよった内容を書かざるをえなくなるため、解答していて不安になったという受験生も少なくないのではないかとと思われる。

<本文分析>

大問番号	第四問 (文科のみ)
出典 (作者)	谷川俊太郎「発語の根はどこにあるのか」(『現代詩手帖』1972年1月)の前半部分。『詩を考える一言葉が生まれる現場』(詩の森文庫2006年 思潮社)所収。
頻出度合・的中率	この筆者による文章は入試で頻出である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2580字。昨年度よりも約790字増加。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第四問	随筆	(一)	記述	標準	傍線部理由説明。2行後の〈自分を「私的」と感ずるのではなく「無名」とする〉という内容を、わかりやすく説明する。
		(二)	記述	標準	傍線部内容説明。筆者が傍線部のあり方を「信じたい」と述べている点に注目し、同じ段落にある「真の媒介者」のあり方を説明する。
		(三)	記述	やや難	傍線部内容説明。傍線部の「そのような」が直接指しているのは同じ段落の冒頭の一文だが、この一文の内容が一義的には捉えられないため、解答の方向性が確定しにくい。
		(四)	記述	標準	傍線部理由説明。「作品」を書くことと「文章」を書くことの違いを説明する。傍線部以降の部分だけでなく、冒頭の四つの段落にも注目したい。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

文学者・芸術家のエッセイを含むさまざまなタイプの文章に積極的にふれ、高度な読解力を身につけること。何が問われているかがわかりにくい設問も多いため、解答の方向を正確に見定め、答えるべきことをわかりやすく簡潔な表現で自在に説明しうる表現力を養う必要がある。